

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

「克己・友愛・励学」の精神を礎に、校風と伝統を創造する心豊かな生徒の育成をめざす。

- ① 自らを律し、心豊かに生きる生徒の育成
- ② 自ら学び、深く考え、粘り強く追究する生徒の育成
- ③ 安全に心がけ、進んで心身を鍛えることのできる生徒の育成

(2) 経営方針

「一人を粗末にすると、教育はその光を失う」の至言を体し、地域社会の期待に応え確固たる校風の樹立に努める。

- ① 全校一致、和の精神に徹し、活気と創意に満ちた学校づくりに努める。
- ② 教育愛、使命感に燃え、生徒一人一人を大切に教育を推進する。
- ③ 命の尊さを知って、健康と安全に心がけ、たくましい心と体を鍛える。
- ④ 全ての生徒が個性を生かし、精一杯努力する気風をつくる。
- ⑤ 授業研究を中心に積極的な研修を進め、教師の力量と資質を高める。
- ⑥ 教育の場を広く内外に求め、国際化をめざした教育の推進を図る。
- ⑦ 家庭や地域社会との連携を密にして、生徒の健全育成を図る。

(3) 本年度の重点努力目標

「君の笑顔を求めて」のテーマのもと、「学校生活のどの場面を取り上げても生徒の笑顔があふれる学校」をめざす学校像とし、以下の「重点努力目標」からアプローチを図る。

笑顔とは、①真剣に取り組む姿 ②思い切り楽しむ姿 ③満足感あふれる姿と捉え、こうした姿が学校生活の様々な場面で見られたとき、それが「確かな学力」や「豊かな心」・「健康な体」が育まれている過程であると考えて。そして、学力・心・体が育成されることで、他の場面やより質の高い笑顔につながっていくものと考えて。

- ① 教師と生徒のよりよい人間関係は、全ての教育活動を支える基盤となる。生徒の心の動きを捉えて、互いに信頼し合える学校づくりに努める。
- ② 学校行事は、学習の集大成の場として教育的な効果が高い。スポーツフェスタ・北中祭をはじめとした地域と一体となった感動的な行事の創造に努める。
- ③ 「なぜ」から「わかった」「できた」につながる授業が学校教育に求められている。課題解決を楽しめる全員参加型の授業づくりに努める。
- ④ 多忙化解消の業務改善策として、21時の退勤を目標にする。この実現に向け、個々の教職員が改善の視点をもって業務に取り組むようにする。仕事の進捗について互いに声をかけ合い、協働して行える仕事は助け合うようにし、仕事の効率化を図る。

(4) 目指す教師像

- ① 人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教師
- ② 幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教師
- ③ 生徒一人一人に限りない愛情を注ぎ、適切な指導・支援ができる教師
- ④ 高い倫理観をもち、心身ともに健康で明朗・快活な教師

【生きる力の育成】

〈信頼関係づくり〉

①生徒と教師の「絆」を深める生徒指導

教師と生徒のよりよい人間関係は、全ての教育活動を支える基盤となる。生徒の心の動きを捉えて、互いに信頼し合える学校づくりに努める。

- 「おいあくま」（怒るな・威張るな・焦るな・悔やむな・負けるな）の徹底
- 「共感力」「忍耐力」「問題解決力」の育成
- あたりまえのことができる生徒の育成

②不登校への対応

様々な要因で登校できなくなったり、教室に入れなくなったりした生徒との、温かい人間関係づくりと不安や心配などへのサポートが重要となる。

- 教育相談週間やSCを活用した相談活動の充実
- チームによる対応、保護者・関係諸機関との連携
- 小中連携の充実

③家庭・地域との連携

行事や輝ぶな学習、奉仕活動などを通して積極的に地域・社会との交流を図る。また、「北中協力会」や「学校評価活動」をより充実させ、「開かれた学校づくり」を一層推進する。

- 地域の「人・もの・こと」の活用と奉仕活動の一層の推進
- アンケートの分析及び「子ども白書」づくりによる実態把握
- 「北中だより」とホームページの充実

〈豊かな心、健康な体の育成〉

④自主性を育み自己有用感を味わう生徒活動の推進

学校は、生徒が主体的にかかわることで変わる。学校行事の企画・運営・制作を自らがを行い、学校生活をさらに楽しいものにしていく。

- 全生徒が所属する「K I T Aプロ」による主体的な運営
- 「北中ソーラン」を核とした活気ある雰囲気づくり
- 環境教育の基盤づくりとしての「無言清掃」の徹底

⑤感動のある学校行事の創造

学校行事は、学習の集大成の場として教育的な効果が高い。スポーツフェスタ・北中祭をはじめとした地域と一体となった感動的な行事の創造に努める。

- 2大行事(スポーツフェスタ・北中祭)の充実
- プロや本物に触れる機会を重視した学校行事の創造
- 保護者や地域と連携を図る行事の展開

⑥部活動の充実

心身共に成長の急坂にさしかかる中学生期は、心や体を鍛え、4つのライフスキル(目標設定能力・意志決定能力・対人関係・ストレスマネジメント)を高める場である。かけがえのない思い出ができる部活動を大切にしていく。

- よりよい人間関係づくりの場となる部活動
- あいさつと礼儀を大切にす部活動
- 集中度と参加度の高い練習

〈確かな学力の定着〉 (E S Dの視点に立った取組)

⑦「わかる・できる授業」へのアプローチ

学習は授業に向かう姿勢が大切である。その上で基礎・基本を身につけることで、応用・発展につながる。学力の基礎や教科の基本的事項の定着を図る。

- R T (朝の読書) やG T (朝の学習) の充実
- 学習の基本ルールの徹底による学習資質の向上
- 学習形態 (少人数指導・グループ学習) の工夫

⑧「わかる・できる授業」の展開

「なぜ」から「わかった」「できた」につながる授業が学校教育に求められている。課題解決を楽しめる全員参加型の授業づくりに努める。

- 授業デザインを意識した構成の工夫
- 課題を「設定する」「追究する」「まとめる」の3つの段階に分けた授業の組立
- 教師の自己研鑽による授業力の向上

⑨自己実現をめざす「輝ぶな学習」(総合的な学習の時間)の充実

将来の生き方を考えるとともに、「持続発展可能な社会」の担い手としての資質や能力を育成すること (E S D) は、中学校教育の大きな使命であると考えている。

- 環境教育・地域に根差した計画的な取組の実践
- 勤労観・職業観を育てる「キャリア教育」の推進
- 実践力を高める「輝ぶな学習」の推進